

毛馬内

かしわざき新聞

内藤湖南先生顕彰会 発行

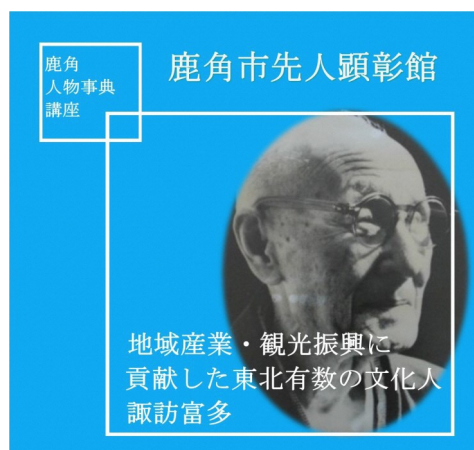
第1号
2022.7.1

「鹿角人物事典講座」今年も好評！

六月十八日（土）午後一時三十分から、顕彰館内のホールにて行われました。今回は十和田湖で養魚・観光の礎を築いた「和井内貞行」を取り上げました。和井内貞行は、一八五八年、毛馬内古町に生まれました。現在、先人顕彰館の建っている場所が貞行の生家です。貞行は二十四歳の時、十輪田鉦山の吏員として赴任する際に、初めて妻のカツ子と湖水を見たのです。貞行の目に十和田湖はどのようなうつたののでしょうか。

養魚・観光開発で偉業を成し遂げた貞行と、それを支えた妻・カツ子。その二人の銅像が来年十月にオープンする予定の道の駅の敷地内に建てられる予定です。時を越え、また二人で湖水を眺められるのを心待ちにしている事でしょう。

次回予告



おとなの書道講座

今年度より、新しい講座をはじめました。講師は、永井あき子氏です。毎月第四土曜日の全六回行です。初心者大歓迎！あなたの

切。そのため「筆は最強の筆記用具」と先生がお話してくださったのが、印象的でした。さて、書の世界では、お手本が唐の時代から

丁寧に書くことが大

思いを筆で表現してみませんか？「書」は自己表現、思いを込めて

かわっていないそうです。それほど「優れたものだ」という事なのでしょうね。時々、墨の香りに囲まれ、心を落ち着かせて、筆をとってみたいと思います。



「こなんくん」のつぶやき



「立てば芍薬座れば牡丹、歩く姿は百合の花」と女性の美しい立ち振る舞いを花に例えた言葉。顕彰館の花壇で今年も芍薬が美しい姿を見せてくれました。花の大きさや色、そこだけ華やかさが増していました。梅雨の合間にのぞいた青空に映える濃いピンク色は、目を引きまです。来年も楽しみです。



第一号発行！

先人顕彰館で行われた講座や事業などを紹介します。新聞の名前「かしわざき」は、顕彰館のある地名からです。これから、宜しくお願いします。

